

平成 28 年度デイパーク大府事業活動報告

改正社会福祉法の施行に向けた準備の年であり、公益性の発揮、質の高い福祉サービスを継続して提供し、ご利用者が安心して生活できるような「地域」重視の運営体制や人材の育成、地域の皆様に愛されるデイパーク大府を目標に継続して取り組んできた一年でした。

1) 法人全体

① 施設及び体制整備

- ・効率的な使用、契約見直しにて、水光熱使用量、経費を削減しています。
- ・施設管理契約に関して一括管理から個別の管理に切り替え、4年目となり分離発注による委託料コスト削減を継続的に維持しております。
- ・定例安全衛生委員会で、感染予防の啓発を促し、手洗い消毒の徹底、マスク着用等の推進にてまん延予防に努めました。
- ・定着支援制度を活用し、両立支援トモニマークの獲得、メンター研修制度、働きやすい職場作りを推進し、離職率11パーセント達成いたしました。
- ・法人研修にて、担当制による企画のプロデュース、評価までを一括して行うことで、意識の向上が養われ企画力を高めました。
- ・現在5名の障がい者の方が職員として勤務し、障がい者雇用率2%（2人）を超える充足を達成したため、29年度は奨励金の受給法人となります。

② 利用者支援

- ・平成26年度から実施している行事食を目当てに追加利用される方も定着し、コシヒカリ米といっしょに、おいしく食べていただける食事提供に取り組んでいます。
- ・年間60回程度のギターによる弾き語りのカラオケ教室を実施してきました。
- ・年間80回程度の演芸ボランティア慰問を利用者全体で楽しみました。
- ・年間120回程度の買い物支援、移動販売等で買い物を楽しんでいただきました。
- ・交流ホール内の喫茶コーナーをボランティア・職員の協力により実施しました。

③ 地域貢献

- ・年末のもちつき大会に地域の子供会、住民の方に多数参加いただきました。
- ・交流ホールに9種類のトレーニングマシンを設置し、地域の方々にも使用していただきました。
- ・交流ホールで月2回、地域のご高齢者とケアハウス入居者様、デイサービス利用者様による健康体操を実施継続しています。
- ・地域の方を交え法人全体で防災訓練を実施しました。
- ・福祉避難所の役割としてソーラー発電機及び非常照明器具、地域住民の緊急避難者を想定した非常食の整備を行いました。

- ・障がい者就職トレーニングセンターと連携し、障がい者職業訓練、実習の機会を整え2名の方を受け入れました。
- ・市の委託事業と別に独自契約の配食サービスにおいて、8件前後の世帯の方に夕食の宅配と合わせ安否確認を実施しています。
- ・8月に夏祭り、3月にさくら祭りを実施し、多くの地域住民の参加を得ました。
- ・会議室を地域自治会や子供会の会議等に毎月利用してもらっています。

2) 特別養護老人ホーム 利用定員 80名

新規入居者数 23名 退居者数 20名
稼働率 96.5% (前年度稼働率 96.3%)

- ・平成28年度は例年に近い数の入退居者数となりました。
退居者の8割の方を当施設で看取らせて頂いています。(昨年度6割)
継続して要介護4,5の方を7割入居していただいていますので、施設で過ごしていただく期間は短くなり、入居者様の入れ替えが速くなり、重度者を積極的に受け入れ介護負担量も増えています。
- ・昨年度同様、継続して24時間シートの活用に取り組んでいます。
ユニット単位での動きが定着し10人の入居者様のことをより理解するために、ご本人、ご家族により聞き取りを行い、自宅での生活に少しでも近づけるように努力しています。自宅近くの神社の節分祭に出かけたり、馴染みのうどん屋さんのうどんを持ち帰りみんなで食べたり、孫の結婚式の写真の前取りに徳川苑に出かけたり、夫の命日には自宅で過ごしたいという希望もありお手伝いもしました。施設に入居されていても、ご家族、地域との関係を大切にしていきたいと考えています。
- ・施設の生活だとしても、きまりきった限定された生活だけではなく、自分自身の生活スタイルを維持できるよう、援助していきたいと思っています。
- ・見守り型介護ロボットを三台導入し(助成金利用)、転倒防止や24時間シートの作成や介護負担の軽減に努めてきました。

3) 短期入所生活介護事業所 利用定員 30名

延べ利用者数 10,212名
稼働率は93.2% (前年度稼働率 92.7%)

- ・前年度比よりプラスに転じることは出来ましたが長期ご利用者の緊急入院等で入退所の調整が難しいことには変わりありません。

- ・多床室が多く、利用者の性別や要望によっても入所調整が大変難しい状況にあります。
- ・短期間のご利用ではありますが、機能訓練の実施に力を入れ、新館1階の機能訓練マシ等でリハビリを行って頂き、自宅へ帰られてからも、体調変化で困らないように、個別の機能訓練に力を注ぎました。
- ・日中の過ごし方としてはリビングで大型テレビを見たり、そのテレビで歌謡ショーや映画の鑑賞もされておられます。又、将棋を指されたり、健康体操、レクリエーション活動にも力をいれました。
- ・今後の課題としては、設備の老朽化にともない故障個所が増えており、どのように補っていくか、検討していきたいと思えます。

4) 第1デイサービス 利用定員 30名

延べ利用者数名 8, 174名

稼働率 77.4% (前年度稼働率 84.1%)

- ・市内デイサービスが複数あるなか、施設の老朽化もあり、新規の申し込み件数が減少傾向になっているため、ケアマネージャーへのPRを行ってきました。
- ・男性利用者の増加に伴いトレーニングマシンを使用した機能訓練に力を入れて、明確な目標設定と定期的な運動機能評価の取り組みを行ってきました。
- ・第一デイサービス独自の夏祭り、流しそうめん、カラオケ大会などイベントを増やし、楽しんでいただきました。
- ・趣味活動の充実、個別レクリエーションに取り組んでいますので、今後自らの意思で選択できる充実したデイサービスを目指していきたいと思えます。

5) 第2デイサービス 利用定員 30名

延べ人数 8330人

稼働率 76% (前年度稼働率 78.8%)

- ・昨年5月1日より、配置基準の増員に伴い、中重度ケア体制加算の追加を行い、増収につなげました。
- ・社会資源をいかした外部ボランティアの人にも積極的に働きかけ、昨年以上に充実したレクリエーション活動を行いました。
- ・ジョイサウンド(通信カラオケ)の導入はとて好評で発生練習を促しています。月二回の絵手紙や折り紙教室の作品はデイサービス入口に展示し、みんなで楽しんでいます。

- ・男性利用者も木々の剪定や庭の手入れをしたり、楽しんでもらっています。野菜を育て、ジャガイモ餅を作ったり、サニーレタスを育て、昼食に色を添えました。また今年にはいり、自立歩行の利用者様の要望もあり、施設内外を自由に散歩してもらう取り組みを行っています。
- ・マシンを利用した機能訓練も定着し、機能保持に力を注いでいます。
- ・第2デイサービスは、重度利用者の方が多く、利用期間が短いという事も念頭にいれ、新規獲得には力を注いでいきたいと思えます。

6) ケアハウス 利用定員 30名

3月1日現在 29名

新規入所者2名 退所者3名

- ・施設開所時から入居しているご入居者様が3名、平均入所期間も8年を超えて、全体に長期的な利用となっています。
- ・介護認定入居者は3名減り13名、薬の管理に注意が必要な人や訪問介護等の利用を受けてケアハウスの生活が成り立っているご入居者様もでてきています。
- ・ご入居者様にとって潤いのある生活を持ってもらうため、陶芸教室、健康体操、絵手紙教室、コーラスクラブ、クラフト作り、カラオケなど生きがい支援活動も年間を通じ156回以上実施しています。
- ・特に陶芸サークルの作品は、夏祭りや福祉健康フェア、さくら祭り等にて販売も行い、売上金は材料費等に充当し、日帰り旅行にも出かけています。
- ・月2回の買い物ツアー実施しました。
- ・訪問歯科医院の協力を受け、希望するご入居者全員に無料による定期歯科検診を実施するとともに、継続的な治療が必要なご入居者様には居室での歯科治療、義歯調整を行ってもらっています。
- ・ご希望者には機能訓練指導員により定期的な体力測定とトレーニングマシンの活用を進めています。
- ・栄養士と担当者による面談の実施を行い嗜好、健康、日常生活、食事（献立）などの検討を行っています。

7) 居宅介護支援事業所

延べ利用者数1,470名 うち要支援者303名 延べ認定調査数86名

(-225名)、前年度比 38名 減少 うち要支援者14名 減少

- ・4名の介護支援専門員を配置し、(内、主任介護支援専門員1名配置)特定事業所(Ⅱ)として認定を受けています。
- ・各事業所と連動し365日営業し柔軟に相談を受けられる体制を図っています。

- ・ 特定事業所（Ⅱ）として、市内外の地域包括支援センター、医療機関からの支援困難ケースを受け入れ、行政、医療との連携を積極的に行いました。
- ・ 知多北部広域連合より委託を受け、要介護認定の運営に認定調査員として協力しています。
- ・ 市内外の包括支援センター、地域支援事業等に関する研修に参加しました。
- ・ 介護予防、日常生活支援総合事業に関する研修に参加しました。
- ・ 平成29年度により始まる「新カリキュラム 愛知県介護支援専門員実務研修」の実習生を受け入れるため実習指導者説明会に参加しました。
- ・ H28年度、新規受け入れ実数は58件、前年度比2.3倍でした。新規受け入れがあったにもかかわらず、利用者数が伸びなかったのは、要介護4、5の方の入院、入所、また悪性腫瘍など在宅期間の短いケースが多かったことが、要因と思われます。
- ・ 今後も新規受け入れを積極的に行い利用者数の増加を図ります。

8) 今後の行事予定

8月	下旬	デイパーク大府夏祭り
9月	中旬	地域住民との合同消防訓練
12月	下旬	地域住民との交流もちつき大会
3月	下旬（土）	デイパークさくら祭り